

アンケート調査による「土木」のイメージ向上方法の検討

芝浦工業大学 学生会員 ○中川 大樹
芝浦工業大学 正会員 伊代田 岳史

1. 背景・目的

土木に関わるマスメディアの報道では、構造物の事故の報道が多い。そのため、一般市民は「土木」に対してマイナスイメージを持つ人が多いと考えられる。マイナスイメージは、公共事業の予算や技術者の確保に影響すると考える。しかし、人間が生活する上で社会基盤整備は欠かすことができない。そこで、一般市民においても土木に対する理解を得ることが必要だと考える。

そこで、高校生、大学院生、一般の方それぞれにおいて「土木」に対してどのようなイメージを持っているかの調査および分析する。これにより土木に対するイメージを向上させる方法の検討を目的とした。

2. アンケート調査の概要

2.1 実施アンケートの内容

実施したアンケートの設問と選択キーワードの一覧を図-1に示す。設問に対して選択キーワードを選んでもらい、複数回答を可とした。

2.2 対象者

対象者ごとの回答数を表-1に示す。対象者の詳細を以下に示す。①土木工学の説明することを目的とした出張授業において参加した高校生を「高校生」、②芝浦工業大学大学院建設工学専攻に所属し、土木工学の理解を深めるための講義に参加した大学院生を「大学院生」とした。ただし、参加した学生のうち土木系の大学院生の回答を除いた。③芝浦工業大学が実施した公開講座で現場見学に参加された方を「一般の方」とした。「高校生」は出張授業、「一般の方」は公開講座に参加を希望しているため、基本的に「土木」に関心があるとみなす。

3. 調査結果

アンケート結果を図-2、図-3、図-4に示す。

3.1 「高校生」の分析

図-2に高校生の設問の回答結果を示す。「土木」か

設問

「土木」および「土木構造物」と聞いて
思いつくキーワードを選択してください(複数選択可)

選択キーワードの一覧

スケールが大きい、構造設計、談合、ダイナミック3K(きつい/汚い/危険)、くさい、うるさい、まちづくり環境を壊す、維持管理、金の無駄遣い、環境を活かす未来を創る、事故、ドカタ、耐震、安全、防災、騒音イメージがわからない
その他...

図-1 アンケートの設問とキーワード

表-1 アンケートの回答数

対象者	回答数
高校生	29
大学院生(建築系)	48
一般の方	53
合計	130

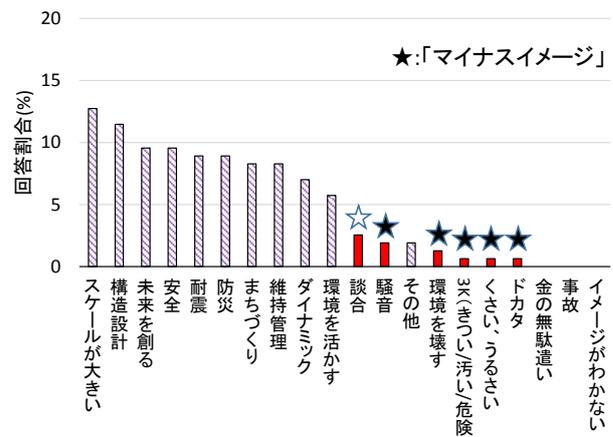


図-2 高校生の選択キーワードの割合

ら思いつくキーワードとして最も回答割合の多かったものは、「スケールが大きい」。続いて、「構造設計」「未来をつくる」となっている。また、「談合」や「騒音」「3K」といった土木に対してマイナスイメージの割合は他のキーワードと比較して選択割合が少ないことが確認できる。

年齢を考慮すると談合や事故の報道を見聞きしている機会が少ないと考えられる。また、対象者が土木に関心がある学生であるため、マイナスイメージのキーワードの選択割合が低いと考える。

キーワード アンケート, 土木, イメージ

3.2 「大学院生(建築系)」の分析

図-3に大学院生の設問の回答結果を示す。「土木」から思いつくキーワードとして最も回答割合が多かったのは「スケールが大きい」だった。続いて、回答割合が多かったのは、「安全」「構造設計」「耐震」「防災」などの土木の役割のキーワードであり、それらと並んで「3K」という回答が入っている。

これらの結果より、建設業として土木に関係のある建築系であっても「3K」が上位に入っていることを考えると、土木に対して悪いイメージを持っていると考えられる。

3.3 「一般の方」の分析

図-4に一般の方の回答結果を示す。「土木」から思いつくキーワードとして回答割合の多い順に「まちづくり」「スケールが大きい」「構造設計」となっている。続いて、「ドカタ」「3K」というキーワード上位に入っている。また、「高校生」や「大学院生」の回答結果と比較して、回答キーワードの割合が分散している。

この結果より、「一般の方」は「土木」に対し様々なイメージを持っていると考えられる。

4. まとめ

三者が思うキーワードの上位5位までを集計し、まとめると図-5となる。以上から、高校生、大学院生は「安全」「防災」といったキーワードを持つため土木の役割を認識していると考えられる。一方で、一般の方は「ドカタ」「3K」といったキーワードを持つため、土木に対して悪いイメージも有している。

「マイナスイメージ」のキーワードに着目すると、施工現場から想像されるキーワードが多い。そこで、一般市民の参加できる現場見学会を開催することにより、実際の施工現場を知ることができる。現在、施工現場では現場を清潔に保つことや環境への配慮、騒音・振動対策などを行っているため、「3K」、「騒音」といったマイナスイメージを低減できると考える。また、対象者がイメージするキーワードの回答割合が異なるため、参加者に合わせたキーワードを観点に土木の説明をすることで、より効果的に「土木」のイメージの向上を図ることができると考えた。

参考文献

- (1) 福島昌悟, 伊代田岳史:「アンケート調査による土木の魅力的要素の抽出とイメージ向上策の提案」,

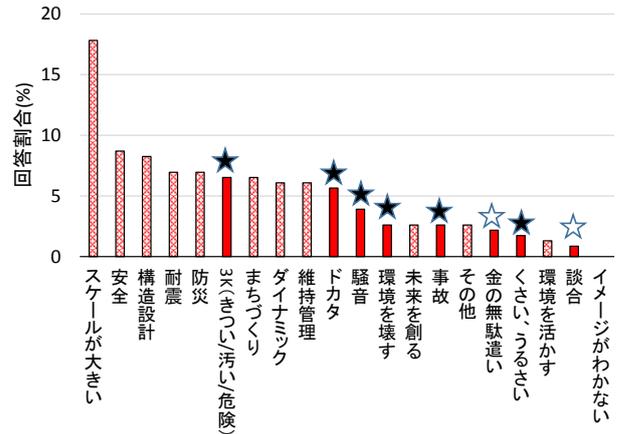


図-3 大学院生の選択キーワードの割合

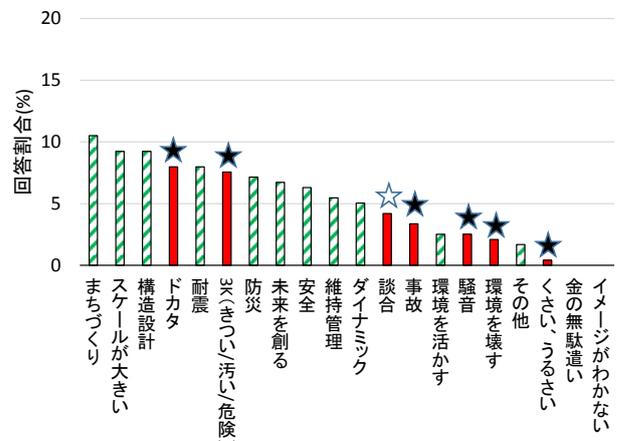


図-4 一般の方の選択キーワードの割合

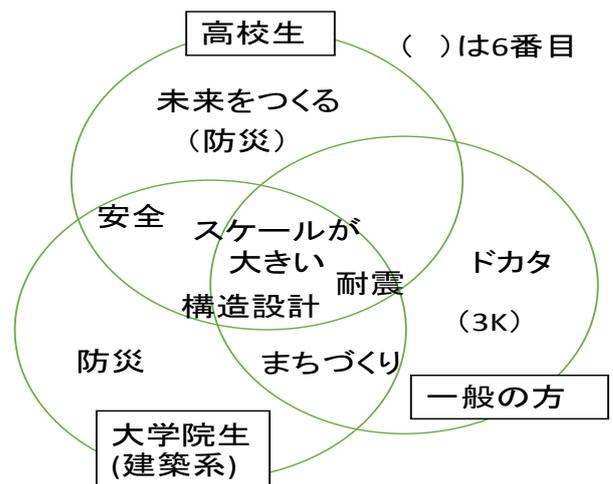


図-5 三者のキーワードの関係

- (2) 伊代田岳史:『土木』のイメージ改善のための教育効果の検証, 土木学会第71回年次学術講演会, CS1-016, 2016